

事例番号:290234

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 0 日

22:45 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 1 日

4:19 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 1 日

(2) 出生時体重:2270g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.321、PCO₂ 41.2mmHg、PO₂ 9mmHg、

HCO₃⁻ 21.3mmol/L、BE -5mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

出生当日 筋緊張の亢進、経皮的動脈血酸素飽和度低下、炎症反応の軽度亢進を認めたため、新生児搬送

生後 14 日 退院

生後 2 ヶ月 体重増加不良

生後 8 ヶ月 筋緊張亢進、体重増加不良、腱反射亢進あり

2 歳 8 ヶ月 不随意運動(ジストニア)、運動発達遅滞、外斜視、嚥下・表出性言語障害を認める

(7) 頭部画像所見:

生後 2 ヶ月 頭部 CT で先天性の脳障害を示唆する所見を認めず、大脳基底核・視床も含めて明らかな信号異常は認めず周産期の低酸素・虚血の所見もない

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因を解明することが極めて困難な事例であるが、先天異常の可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 分娩経過中の管理(分娩監視装置装着、内診等)は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 出生後の対応(経皮的動脈血酸素飽和度の測定、酸素投与、保育器収容等)は一般的である。

(2) 出生当日に筋緊張の亢進、経皮的動脈血酸素飽和度低下、炎症反応の軽度亢進を認めたため、高次医療機関 NICU へ搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。